

土壤消毒剤

三井 **ソイリーン**
クロルピクリン・D-Dくん蒸剤

医薬用外劇物

消防法:危険物第4類 第2石油類

ソイリーンは(株)エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です

1回の処理で
センチュウ類・土壌病害・
一年草雑草を同時防除

バランスよく配合したクロルピクリンと
D-Dが土壌中でガス化し、隅々まで拡散
浸透し、効果を示します。

豆類(未成熟)と
キュウリ ホモプシス根腐病に
拡大登録!

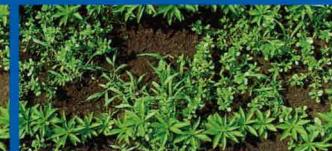
雑草防除効果



ソイリーン 30ℓ/10a



A剤 20ℓ/10a



無処理区

※(株)エス・ディー・エス バイオテック社内圃場試験(平成12年)

作業手順

耕起
・
整地薬剤
注入

被覆

被覆
除去ガス抜き
作業施肥
・
畦立(畦
(マルチ)定植
・
播種

上手な使い方

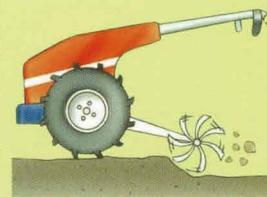
1 圃場の準備

畠内に残っている茎葉や
根など(特に病気や線虫
におかされたもの)は、で
きる限り取り除いてくだ
さい。

畠はなるべく深く耕し、整
地してください。

2 注入

注入は30cm間
隔のチドリ状で、
深さ約15cmに
所定量を注入し
ます。



3 被覆(消毒)

注入後は必ずポリエチレンシート(厚さ0.03mm以上)など
で地表面を被覆してください。
作業に際しては、マスク・メガネなど
の保護具を着けてください。
10日~15日程度
そのまま放置します。
地温が低い場合は期間を
さらに長くしてください。



4 被覆(除去)

作付けの1~2日前に畠を耕起して
ガス抜きを行ってください。地温が
低い場合は作付けまでの期間をさ
らに長くしてください。



5 移植(播種)

- (1)ガスが抜けたあとで植付けますが、念のため
植付けの前に畠の2~3ヵ所を掘って、薬剤の
臭いがしないことを確認してください。
- (2)もし、臭いが残っている
場合は、さらに放置
してから植付け
してください。



6 消毒後の注意

ソイリーンで消毒した畠には、他からセンチュウ・病原
菌などを持込まないようにすることが大切です。

- (1)汚染土で使った農機具などはよく洗い、
病原菌をつけたまま畠に持込まない
ようにしてください。
- (2)降雨などで病原菌が他から流れこまない
ように注意し、また、畠の排水をよくしてください。
- (3)苗(種)は、無病で健全なものを移植(播種)してください。



適用病害虫・雑草

2018年9月12日現在

作物名	適用病害虫名	使用量	適用雑草 および使用量
にんじん	しみ腐病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
すいか	つる割病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
	黒点根腐病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
メロン	えぞ斑点病	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
だいこん	バータシリウム黒点病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
はくさい	黄化病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
	根くびれ病	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
キャベツ	苗立枯病(リゾクトニア菌)	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
	青枯病	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
なす	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
トマト ミニトマト	青枯病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
	萎凋病	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
ほうれんそう	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
きゅうり	つる割病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
	ホモブシス根腐病	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
ピーマン とうがらし類	青枯病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
かぼちゃ	立枯病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
しょうが	根茎腐敗病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
葉しょうが	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
ねぎ	白綿病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
みょうが(花穂) みょうが(茎葉) にがうり	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
	苗立枯病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
豆類 <small>(未成熟・ただし・さやいんげん、 未成熟・そらまめ・さえんどう、 実えんどうを除く)</small>	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
さやいんげん			
未成熟そらまめ			
さやえんどう			
実えんどう			
やまのいも	根腐病 褐色腐敗病 黒あざ病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
ごぼう	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
さといも			
こんにゃく	根腐病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
ばれいしょ	そうか病 青枯病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
いちご	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
	萎黄病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
かんしょ	炭疽病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
	立枯病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
きく	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
ストック	半身萎凋病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
チューリップ	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
カーネーション	球根腐敗病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
トルコギキョウ	萎凋細菌病	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
花き類・観葉植物 <small>(ストック、チューリップ、きく、 カーネーション、トルコギキョウを除く)</small>	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
セルリー	萎黄病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)	
こまつな レタス、かぶ	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)	
たばこ	ネコブセンチュウ 立枯病	(畦内土壤注入) 1穴あたり2~3ml	

※本製品は農業用土壌消毒剤であり、製品ラベルの記載内容以外には使用しないでください。
本印刷物は2018年9月現在の資料、情報、データ等に基づいて作成していますが、記載データ及び評価はあくまで測定値の代表例であり、全ての事例に当てはまるものではありません。

【使用方法】

- 使用時期: 作付けの10~15日前まで【注: たばこは、作付の30日前まで】
- 使用回数: 1回 ● D-R-Dを含む農業の総使用回数: 1回
- クロルビクリンを含む農業の総使用回数:

 - 1回: にんじん、だいこん、はくさい、かぼちゃ、レタス、かぶ、ばれいしょ、かんしょ、さといも、やまいも、こんにゃく、オクラ、タバコ、豆類(未成熟・ただし・さやいんげん、未成熟そらまめ・さえんどう、実えんどうを除く)2回以内(床土1回以内): ほうれん草(ほうれん草)、芋(いも)、さわら(さわら)、えんどう(えんどう)2回以内(床土1回以内、圃場1回以内): メロン、キヤウチー、未成熟そらまめ
 - 3回以内(床土1回以内、圃場2回以内): すいか、トマト、ミニトマト、キウイ、ピーマン、とうがらし類、いちご、ねぎ、セリ、花き類(観葉植物)、さやいんげん

- 使用方法: 耕起整地後、30cm間隔のチドリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。【注: たばこは、(畦内土壤注入)畦立後、畦中央の頂上から、30cm間隔で、35cmの深さに所定量を注入し、直ちに注入口をふさぐ、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。】
- 使用方法(適用雑草名: 一年生雑草): 耕起整地後、30cm間隔のチドリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。

■使用上の注意

- (1)生育中の作物には薬害を生ずるおそれがあるので、使用しないでください。
- (2)温度が低いと本剤のガス化が悪く、十分な効果が得られないこともありますので、なるべく地温が7℃以上の時使用してください。
- (3)本剤の処理に当たっては、ガスが土中で十分に拡散するように耕起・碎土を十分行い、丁寧に整地してから処理してください。但し、耕起直後ではガスが抜けやすいので、耕起後しばらくして土壤がおちついてから処理することをおすすめします。また、土中のガスの拡散は土の湿り気のある時、すなはち土を握って放すと割れ目ができる程度の時に注入するのが最適です。注入後は直ちに穴をふさぎ、地表面をポリエチレン、ビニール等で被覆してください。
- (4)処理は原則として作付の10~15日前に行い、作付の1~2日前に畑を耕起して十分にガス抜きをしてください。ガス抜きが不十分な場合には、薬害を生ずるおそれがあるので注意してください。うり類は薬害を生じやすい傾向にありますので、ガス抜き特に注意してください。
- (5)処理後、大雨がありたり、土壤が重粘土質で通氣の悪い所では、ガス抜き特に注意してください。
- (6)処理後、未消毒の土がなるべく混入しないよう注意してください。
- (7)ミツバチの巣箱周辺での使用はさけてください。
- (8)消石灰などのアルカリ性肥料の施用直後に本剤を処理すると作物に有害な物質を作り、薬害の発生するおそれがあるので、このような肥料はガス抜き後に施用するか、または本剤処理の10日前以上前に施用してください。
- (9)他の農業混用しないでください。特にカーバム剤及びカーバムナトリウム剤とは化学反応により、発熱し危険があるので、カーバム剤及びカーバムナトリウム剤使用後の散布器具等はよく洗浄してから用いてください。
- (10)金属腐食性があるので、使用後の注入器具その他は灯油でよく洗ってください。
- (11)薬液の入っている製品缶に水が混入すると缶が腐食するおそれがあるので、製品缶には水を入れないでください。
- (12)土壤消毒機の薬液タンク(ポリタンク等)に移した薬液は水分を含んでいる可能性があり、製品缶を腐食するおそれがあるので、残存薬液は製品缶には戻さず、使い切ってください。
- (13)処理後の放置期間と効果、薬害との関係は、土壤の種類、腐植土の多少、温度、土壤水分、作物の種類によって一様ではないので、本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意してください。特に、初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- (14)適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

■安全使用上の注意

- (1)医薬用外劇毒、取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤は窒息性有毒ガスを発生するので、揮散したガスを吸入しないよう注意してください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、通風の良好的な場所で顔を横に向げ、体を暖め、頭部を冷やしながら安静にし、直ちに医師の手当を受けてください。場合によっては、酸素吸入又は人工呼吸を行い、強心剤等を投与してください。
- (2)本剤は催涙性の刺激を有し、眼のど、鼻を刺激するので注意してください。ガスが眼に入りひどく痛む時は、多量の水でよく洗い速やかに眼科医の手当を受けてください。
- (3)本剤は皮膚に対して強い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- (4)本剤の作業操作の際は、吸収缶(活性炭入り)付き防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、長靴、不浸透防除衣などを着用してください。ガス抜き作業の際も同様の防護マスク、保護眼鏡を着用してください。作業の際はガスを吸い込まないよう風向き等を十分考慮してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗顔・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- (5)本剤が衣服等に付いた場合には、脱衣して他のものは分けてよく洗濯し、本剤の臭気が抜けるまで身に付かないでください。
- (6)かぶれやすい体质の人は取り扱いに十分注意してください。
- (7)作業中及びくん蒸中の圃場へ小児等作業に関係のないものや家畜、家禽が立ち入らないよう十分に注意してください。
- (8)揮散ガスによる危害を防止するため、本剤の処理は朝夕の気温の低い時間帯に行ってください。処理後は直ちに、必ずビニール等で被覆を行ってください。
- (9)住宅、畜舎、鶏舎周辺での使用に当たっては、以下の事項に留意し、ガスによる危害の発生防止に十分配慮してください。①高温期の処理を避け、気温の低い季節に処理することをおすすめします。②住宅、畜舎、鶏舎が風下になる場合、処理を控えてください。③被覆資材は厚めのもの(0.03mm以上)を使用してください。④風の強さや向きが変わり、危害を及ぼす恐れがある場合は、ガス抜き作業を中断してください。
- (10)本剤をビニールハウス等の施設内で使用する場合、出入口、天窓、側窓等を開け通気を良好にして作業を行ってください。作業後は直ちに密閉し、臭気が残っている期間にはハウス内へ入らないでください。くん蒸後はハウスを開放し、十分換気した後に入室してください。
- (11)本剤を使用する場合、注入処理と同時に被覆する機能を備えた土壤消毒機を使用することをおすすめします。
- (12)本剤は水産動植物(魚類、甲殻類、藻類)に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼、海域及び養殖池に本剤が飛散・流入する恐れのある場所では使用しないでください。
- (13)散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- (14)危険物第四類第二石油類に属するので火薬には十分注意してください。
- (15)本剤は皮膚に対し強い刺激性があります。
- (16)火気をさけ、直射日光が当たらない鍵のかかる低温な場所に密栓して保管してください。

ソイリーン®の空缶処理のお願い

ソイリーンの空缶処理は次の手順できちんと行ってください。

- (1)口栓をはずし、逆さにして薬液を土中にしみませ、缶を空にしてください。(1日~2日前で缶の残液はなくなり、ほぼ1ヶ月で臭気は抜けます)
- (2)缶の底面に3~4ヶ所の孔を開ければ、より早く臭気はなくなるまでです。
- (3)周囲に影響がない場所に、缶を横倒しにして、置いてください。この時風で転がらないように、2~3缶を団のようにロープ等で束ねます。

※完全に臭気がなくなったことを確かめてから、処分してください。